

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (19): 63-68, 1992.

香川県産網翅目・ナナフシ目・直翅目分布資料(3)

豊 嶋 弘

〒760 香川県高松市桜町2-5-10 高松第一高等学校

Records of Dictyoptera, Phasmida and Orthoptera from Kagawa Prefecture (3)

Hiromu TOSHIMA, *Takamatsu-Daiichi Senior High School,*
Sakuramachi, Takamatsu 760, Japan

香川県の網翅目・ナナフシ目・直翅目 fauna を明らかにするための基礎資料として、分布資料(1)および(2)において、17種の採集データ、知見等を記した(豊嶋, 1989・1990)。本稿では、香川県より未記録の種類、産否が不確実であった種類、既知生息地のたいへん少ない種類、普通種であるが珍しい体色の個体等、計 11 種(うち 3 種は既出)について記録する。

Dictyoptera 網翅目

Mantidae カマキリ科

Statilia maculata (Thunberg) コカマキリ
緑色型(図9・図10)

本種の褐色型は普通に生息しているが、日浦(1977)によると、緑色型は稀に発見されるらしいので記録しておく。

坂出市(内浜)聖通寺山 alt. 80m (雑
広葉樹林林縁), 23-IX-1991 1♂.

全体として淡黄緑色。後翅は褐紫色を帯びた前縁と先端部を除き、まったく無色透明。前翅は薄い感じで、後半はやはり無色透明に近い。それらのせいで、一見 *Mantis religiosa* ウスバカマキリを思わせるが、前脚基節と腿節下側に褐色型と同じ色・形の黒色斑がある(図9)。前胸下面の黒帯は淡く、不明瞭。

Amantis nawai Shiraki ヒナカマキリ

香川郡塩江町安田 alt. 360m (雑広葉樹
林林縁), 26-VII-1990 1♀.

県内で判明した2番目の生息地。路傍のブッシュ(枯葉の塊をたくさん付けている灌木)を叩いて得た。

Phasmida ナナフシ目

Phasmatidae ナナフシ科

Neohirasea japonica (de Haan) トゲナ
フシ(図11・図12)

大川郡長尾町(前山)太郎兵衛谷付近 alt.
420~480m (雑広葉樹林) 14-VII-1990

2 exs. (亜成虫), 20-VII-1991 1 ex.

(亜成虫), 16-IX-1991 1♀. 香川県
未記録。

生息場所はマダケを混じえた雑落葉広葉樹林に被われている湿潤な小谷で、林内はむしろ薄暗く、中・下層にはアオキ・アラカンが多い。どの個体もアオキや落葉広葉樹の灌木・枯枝を叩いて得た。体色はアオキの古い茎の色に似て黒っぽく、目視で発見することは困難である。亜成虫の飼育は失敗したが、雌成虫にムラサキシキブを与えると、よく摂食した。

Micadina yasumatsui Shiraki ヤスマツト
ビナナフシ

長尾町太郎兵衛谷付近(後注) 14-VII-
1990 1♀; 塩江町(安原上)西地付近
alt. 180m (コナラ林), 4-VII-1990

1♀; 仲多度郡琴平町琴平山(象頭山)

alt. 180m (常緑広葉樹林), 2-VII-1991

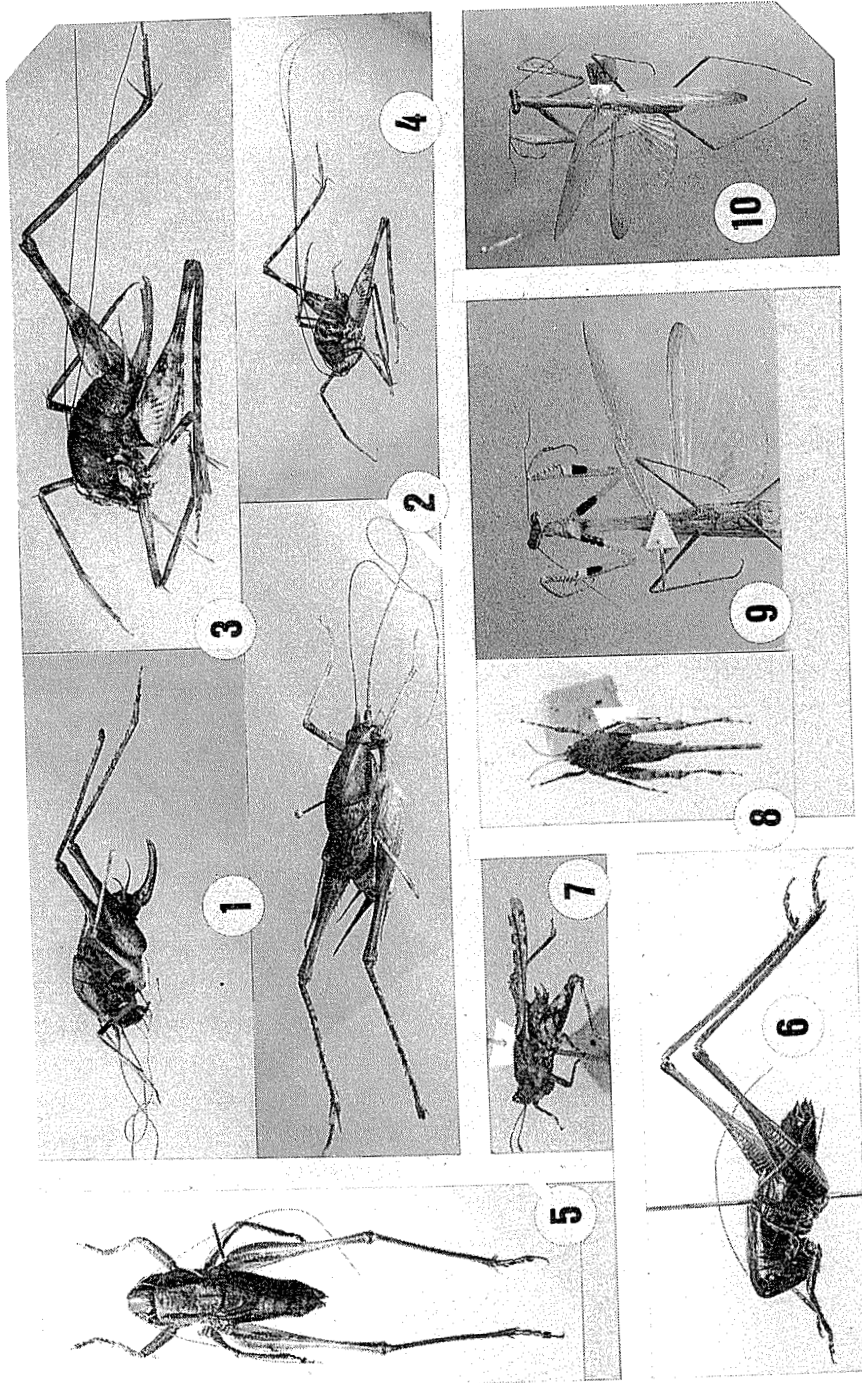
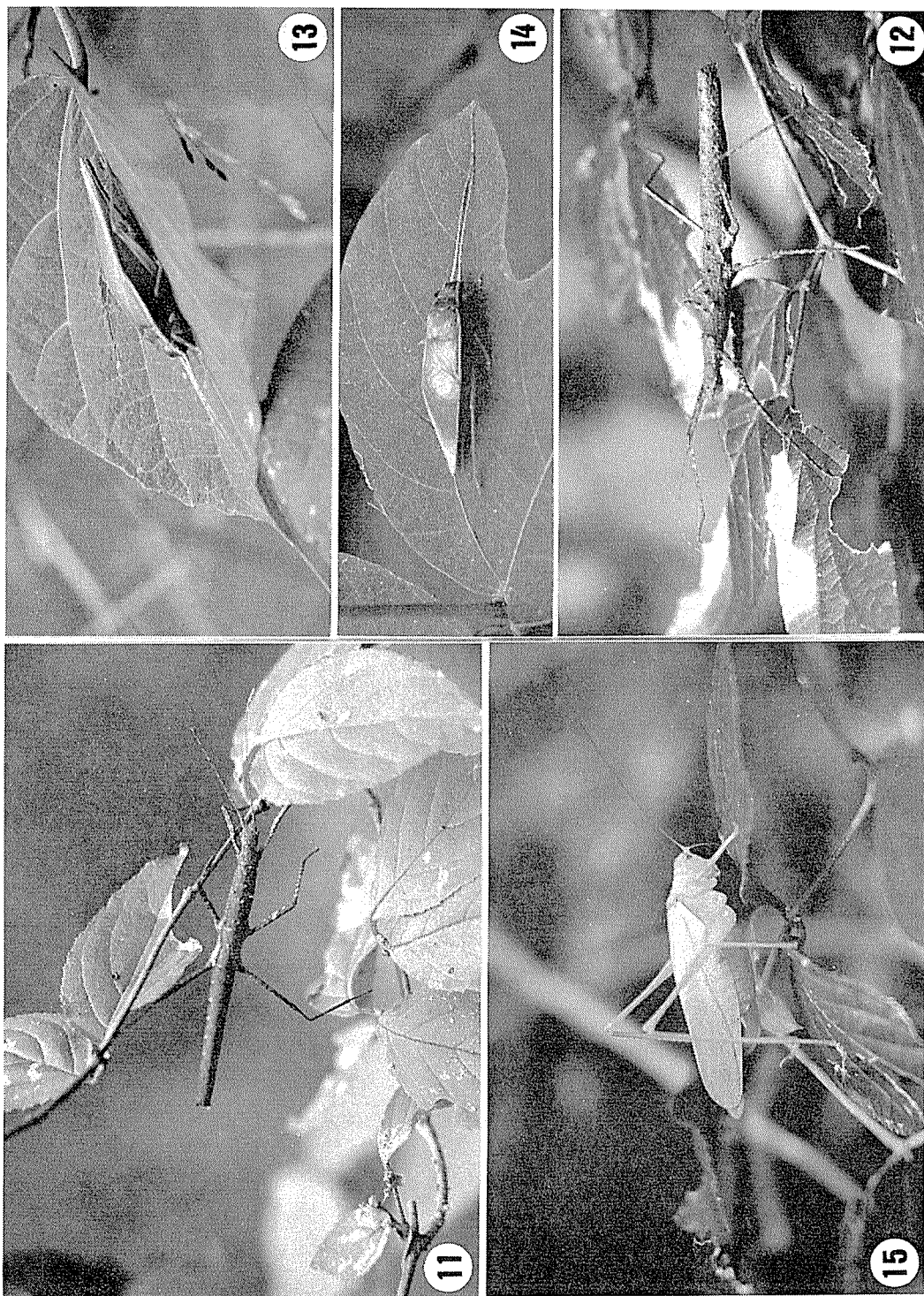


図 1~10: 1~2. ヒメハヤシウマ♀ 3. クラズミウマ♀ 4. 同♂ 5~6. コバネヒメギス♂
7~8. ニセハネナガヒシバツタ♀ 9~10. コカマキリ (続き番号は同一個体).

(次頁図版説明)

図 12~15: 11~12. トゲナナフジ♀ 13. フオマツムシ♀ 14. 同♂ 15. ヘリグロツユムシ♀.



1 ♀. すべて亜成虫。

分布資料(1)において大滝山・竜王山一帯の高所に広く生息している可能性を述べたが、上記のように讃岐山地の縁に近い低標高地、さらに中讃孤立山塊の琴平山でも発見されたので、かなり広範囲に分布していることが推測される。琴平山産の個体はトイレのライトに来ていたが、コナラを与えると良く摂食し、7月25日、成虫になった。しかし、採集場所の近くにコナラは見られないので、何を食べていたのだろうか。

Orthoptera 直翅目

Rhaphidophoridae カマドウマ科

種類判定のもとにした各個体の形質測定値等は表1に記した。市川(1987a, b)が指摘しているように、それぞれの種の特徴を表していると思われる数値等は太字で示してある。なお、比較のため、ハヤシウマとフトコノシタウマについても雌雄各1例ずつを併記した。

Diestrammena sp. 2 ヒメハヤシウマ(図1・図2・図17)

表1. カマドウマ類4種の個体別の形質測定値等

／は肢を欠落しているので不明。前・後腿節外側の刺はすべて0。前・中脛節端の裏側中央の刺はすべて有る。(幼:幼虫。★印:仲多度郡仲南町東山峠 alt. 640m, 8-X-1989. 出嶋利明採集)

		前腿節内	前脛節下	中脛節下	後腿節内	後脛節外	後第1	前胸背板		後腿節	産卵管	体の
		側の刺数	面の刺数	面の刺数	側の刺数	側の刺数	附節の	光沢	長さ			
		左・右	内・外	内・外	左・右	左・右	毛			mm	mm	模様
ヒメハヤシウマ D. sp. 2	大滝山♀	0・0	2・2	2・2	8・9	35・36	なし	弱	8	20	11	まだら型
ハヤシウマ D. sp. 1	東山峠♂	0・0	2・2	2・2	9・8	30・32	〃	弱	6.3	18.2	11	〃
	竜王山♀	0・0	2・2	2・2	8・9	25・27	〃	なし	7	20	11	〃
クラズミウマ T. asynamorus	太郎兵衛♀	9・12	1・2	1・1	/ 7	/ 71	あり	〃	7	22	13	〃
	国分寺♀	12・16	1・2	1・1	9・6	65・70		弱	7	22	14	〃
	国分寺♀ 幼	0・5	1・2	1・1	7・6	51・55	あり	微弱	5	14.5	9.2	〃
	綾坂♂幼	6・10	1・2	1・1	6・5	56・48	〃	〃	6	18.5		〃
	与島♂幼	/ 8	1・2	1・1	4・5	46・42	〃	なし	5	17		〃
	与島♀幼	7・5	1・2	1・1	4 /	62 /	〃	微弱	6	17	11.1	〃
フトコノシタウマ T.robustus	横畑♂	6・7	2・2	2・2	/ 8	/ 65	なし	弱	8.5	27		淡
	猪鼻峠♀	3・4	2・2	2・2	8・11	65・60	〃	微弱	8.5	23	15	まら 斑

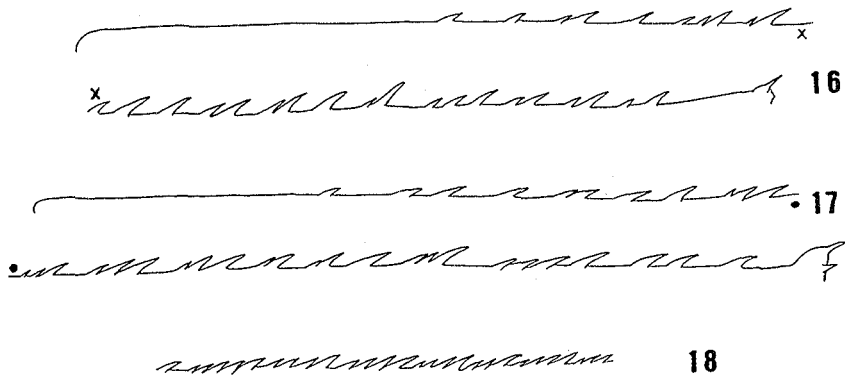


図16~18. 後脛節刺列: 16. ハヤシウマ 17. ヒメハヤシウマ 18. クラズミウマ(一部)

塩江町大滝山頂上付近 alt. 940m (ブナ林), 18-XI-1984 1♀. 香川県未記録。

外観は *Diestrammena* sp. 1 ハヤシウマに酷似しているが、図16・17のように後肢脛節の刺の数とパターンが異なるから、記録を保留していた。この個体の刺数(外側)は35本前後で、3本刺の小シリーズ数個のほか、4本刺のそれを1つ含むが、市川氏のヒメハヤシウマにあたると思われる。ハヤシウマの刺数は30本前後で、小シリーズは普通2本刺であるが、3本刺様(シリーズ内の刺の間隔は前種より広い)のが1~2個混じっていることがある。

Tachycines asynamorus Adelung クラズミウマ(図3・図4・図18)

長尾町太郎兵衛谷 alt. 440m, 15-VII-1989 1♀(山本展之採集); 綾歌郡国分寺町(新居)川西 alt. 40m(家屋), 10-II-1990 1♀(出嶋利明採集), 2-XI-1991 1♀(幼虫); 坂出市府中町綾坂 alt. 20m(新宮八幡宮社殿), 2-XI-1991 3♂3♀(幼虫); 坂出市与島町与島 alt. 70m(山上神社社殿), 26-X-1991 1♂1♀(幼虫); 琴平町琴平山 alt. 170m(金刀比羅宮社殿), 10-XI-1991 1♀.

本種は家屋性の種類とされているが、かなり移動するようで、太郎兵衛谷産の個体は、家屋から数十m離れた場所の林縁にセットした、オサムシ採集用のカルピス・トラップに入った。

野外種の *Tachycines robustus* フトコノシタウマとやや似ているが、成虫は(1)前・中脛節下面の刺数、(2)前腿節下面内側の刺数、(3)第1附節下面の毛列有無の3点で区別できる。しかし、幼虫の確実な違いは(1)だけのようなのである。すなわち、本種の幼虫の(2)は0から約10本までいろいろあるし、(3)は両種の幼虫ともに存在する。

坂口(1989)の記録したクラズミウマは *Diestrammena apicalis* カマドウマの誤同定であったから、本種の確実な記録は、これが最初と思われる。

Tettigoniidae キリギリス科

Chizuella bonneti (Bolivar) コバネヒメギス(図5・図6)

塩江町大滝山 alt. 不明, 12-VIII-1957 1♂; 綾歌郡綾上町(粉所)仲和田 alt. 360m(水田に接した雑広葉樹林林縁の草地), 9-VII-1990 1♂.

坂口(1989)は香川県産として種名をあげているだけであるから、具体的データの記録はこれが最初と思われる。

Ducetia chinensis (Brunner) エゾツユムシ

仲多度郡満濃町(長尾)田淵 alt. 80m(河原草地, 少し離れて雑広葉樹林), 21-VII-1985 1♀(満濃大橋のライト); 長尾町太郎兵衛谷(コナラ・アベマキ林縁), 20-VII-1991 1♂(夜間採集のライト); 同谷付近 alt. 360m(雑落葉広葉樹林), 17-IX-1991 1♀.

県内における既知生息地は大滝山だけで、標本も高松市市民文化センターに保管されている1♂(坂口清一氏採集)のみであったが、ようやく上記の3例を追加できた。満濃大橋のライトに飛来した個体を採集した時、このような低地で発見できるとは思ってもよらず、本種と気付かなかった。四国では山地性の種類とされている(日浦, 1977)から、この雌は自動車などにくっついて運ばれて来た可能性もあり、この付近に生息しているかどうかは、さらに調査が必要である。

Psyrana japonica (Shiraki) ヘリグロツユムシ褐色型(図15)

長尾町太郎兵衛谷 alt. 360m, 16-IX-1991 1♀.

小林(1985)は、*Holochlora japonica* サトクダマキモドキの褐色型を図示し、稀であると述べている。その図とほとんど同じ色のヘリグロツユムシを発見したので記録しておく。褐色型といっても、少し褐色を帯びている程度で、むしろ黄色味の強い色である。

Eneopteridae マツムシ科

Calypotrypus hibinonis (Matsumura) アオマツムシ(図13・図14)

琴平町琴平山 alt. 170m 付近 (サクラの植え込みと常緑広葉樹林), 17-IX-1989 1♂1♀ (トイレのライト)。

だいぶ前, 琴平町に隣接した善通寺市内に生息していると噂されたことがある。しかし, その真偽は確認出来ずに終わっている。坂口 (1989) は志度ハイランド (大川郡志度町く鴨部) 上野山) から記録 (30-VIII-1971 ♂♀) しているが, 高松市市民文化センター所蔵標本中に本種の標本はない。

1963年から1965年にかけて, ガ類採集のため金刀比羅宮を頻繁に訪れているが, その頃, 標本はもちろん得られないし, 鳴き声も聞いた記憶がない。1976年8月27日夜に訪れたときも, とくに注意したが, 同様であった。それ以後は本種の発生適期に調査していないので, いつ頃から棲みつき, 増え始めたか判らない。久かたぶりに訪れた此の夜は, 標高100m付近から320m付近にいたる境内の全域で, 大変な数の鳴き声が聞かれた。

琴平町 (櫛梨) 如意山 alt. 60~100m (マツアベマキ混生林~アベマキ林), 9-IX-1991 1♂1♀。

サクラの植え込みがある山麓の櫛梨神社境内だけでなく, 山の尾根にいたるまで, 混生林内のあちこちで鳴き声が聞かれた。

坂出市聖通寺山山頂付近 alt. 100m (サクラの植え込みと混生林), 3-IX-1991 1♀。

聖通寺山では, 瀬戸大橋架橋に関連して10年来, 昆虫相の調査を続けているが, 今年初めて発見した。

近年, 国内におけるアオマツムシの急速な分布域の拡大が注目されている。県内でも, サクラの木が多いところを中心に, 生息地が急速に広がっていると思われる。

Tetrigidae ヒシバツタ科

Ergatettix dorsiferus (Walker) ニセハネナガヒシバツタ (図8・図9)

香川郡三木町 (井上) 風呂谷 alt. 180m

(溜池の水辺砂地), 28-V 1♀, 7-VII 4♂, 4-VIII 1♀ (ライト), 4-IX-1989 2♀; 坂出市林田町下氏部 alt. 6m (綾川河原の砂州), 6-VI 1♀, 25-VI-1989 1♀; 与島町与島 alt. 3m (低湿地の半砂地), 11-VIII-1989 3♂4♀; 満濃町 (炭所西) 塩田付近 alt. 約150m (土器川河原の砂州), 24-VI-1989 1♂2♀。

どの採集地点でも, 本種と同時に *Euparattix insularis* ハネナガヒシバツタの生息を確認したが, 詳細に見ると両種は棲み分けている。すなわち, 本種は池や川の中に押し出した草のほとんど生えていない, きれいな, 湿った砂地 (砂州の水辺) に居る。ハネナガヒシバツタは主として, 丈の低い草が生えている, あるいは枯葉などの植物質を多く含み, 黒っぽい色になった, 湿り気が多い泥土質のところにいる。

最後に, 貴重な標本をいただいた出嶋利明・山本展之両氏, 与島での採集を援助していただいた山田義範氏に厚くお礼申し上げる。

[後注] 再出する採集地点については, 郡市名 (大字名), alt., (生息環境) を省略した。

引用文献

- 日浦 勇ほか, 1977: 原色日本昆虫図鑑 (下). 全改定新版: 保育社, 大阪.
- 市川顕彦, 1987a: 日本列島のカマドウマ類(1). 東北の自然 30: 16-20.
- , 1987b: 日本列島のカマドウマ類(2). 東北の自然 31: 5-12.
- 小林正明, 1985: 日本の秋の虫: 築地書館, 東京.
- 坂口清一, 1989: 香川県産昆虫標本目録兼香川県産昆虫目録.
- 豊嶋 弘, 1989: 香川県産網翅目・ナナフシ目・直翅目分布資料 (1). 香川生物 15・16: 19-21.
- , 1990: 香川県産網翅目・ナナフシ目・直翅目分布資料 (2). 香川生物 17: 19-24.